様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　５ 月 ２０ 日現在

機関番号：２２６０４
研究種目：基盤研究(B)（海外学術調査）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｈ０５６９０

研究課題名（和文）現代アフリカにおける婚姻慣習法の柔軟性と確定性に関する社会人類学的研究

研究課題名（英文）Anthropological Research on the Flexibility and Certainty of African Customary Laws

研究代表者
石田　慎一郎（Ishida, Shin-ichiro）

東京都立大学・人文科学研究科・准教授

研究者番号：１０５０６３０６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、現代アフリカ諸国における慣習法の運用が、多様な法主体の関与を経て、法の柔軟性を維持しつつ、法の確定性に寄与する条件とはいかなるものかを「応答的法」の概念と以下の手法を用いて検証した。(1)日本とケニアの共同研究として実施し、(2)慣習法（結婚法と家族法）については民族誌・事例研究の手法による地域固有性の全体論的理解と、(3)地域間比較の手法と法人類学・法社会学的知見を入れた一般的・理論的把握を、ともに試みた。主たる成果は、代表者単著『人を知る法、待つことを知る正義』ならびに共著"Family Dynamics and Memories in Kenyan Villages"である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
(1)日本とケニアの共同研究として実施し、その成果を2冊の英文共著としてケニア国内で刊行（ナイロビ大学出版会・ケニア国立博物館から）することで、本研究を共同作業として推進できた。(2)慣習法（婚姻法と家族法）の地域固有性を全体論的に理解する手法を取り入れたことにより、研究対象社会の民族誌的研究としての成果論文を多数刊行できた。(3)地域間比較の手法と法人類学・法社会学的知見を入れた一般的・理論的把握に努めることで、法人類学・法社会学にとっての究極の問いにあたる「法とは何か」を正面から論じる単著を公刊できた（本書は日本法社会学会ならびにアジア法学会の学会賞受賞作となった）。

研究成果の概要（英文）：The focuses of this project are (1) ethnographical documentation of the indigenous legal systems of the Amiiru and Gusii, (2) socio-legal research on the administration of African customary laws (especially marriage laws) in Kenyan legal pluralism using case-method such as observing trials at law courts and library research, (3) historical and comparative study on how the formal legal systems are connected to the informal or local systems and how African customary laws are recognised and applied at official law courts, and (4) theoretical and practical discussions on how the restatement of African customary laws compatible with local perspectives and with the twofold demand for legal certainty and flexibility is possible in Kenyan legal pluralism. Collaboration between Kenyan and Japanese researchers based at the National Museums of Kenya has resulted in the publication of several books.

研究分野：社会人類学

キーワード：社会人類学　法人類学　法社会学　慣習法　民族誌　比較　法理論　国際共同研究

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究でフィールドワークを実施するケニアでは、大半のアフリカ諸国と同様に、家族法等の領域において、部分的に公認された慣習法が裁判所において運用されている。このような慣習法は、植民地支配に由来する旧来の多元的法体制のなかで、国家法がローカルな固有法を部分的に取り入れる過程(たとえばロンドン大学東洋アフリカ学院を拠点とする Restatement of African Law 事業）で制度化された歴史的経緯がある。本研究でいうところの固有法とは、新たな移植法に対峙する、その時点でのドメスティックな法の姿を歴史的プロセスのなかで捉える、法人類学者・千葉正士の概念（Chiba ed. *Asian Indigenous Law*, Kegan Paul, 1989 and Routledge, 2013）によるものである。

アフリカ法研究では、固有法の慣習法化＝公式法化について、上記のような植民地的事業に対する古典的かつ批判的研究のみならず、ナミビア等においてローカルな多様な法主体が関与する現在進行中の新しい試みが注目されている。研究代表者は、上記テーマに関する指導的研究者である千葉正士（東京都立大学名誉教授）、ヴェルナー・メンスキー（ロンドン大学東洋アフリカ学院名誉教授）らと研究交流を重ねつつ、ケニアの農村と裁判所において運用される固有法・慣習法の社会人類学的研究に取り組んできた。

本研究は、研究代表者のこれまでの成果のうえに、ケニア農耕民社会における婚姻慣行の変化を継続的に観察し、すでに多くの研究業績をもつ連携研究者とともに、下記２つのリサーチ・フォーカスを設定して実施する。あらたに取り組む本研究は、法の柔軟性と確定性の諸条件を批判的に考察する手法により、アフリカ慣習法が「応答的法」として発展しうる可能性を社会人類学的に明らかにすることを目指す。ここでいう応答的法とは、柔軟性を欠いた極端に形式主義的な自律的法と、恣意的な法運用によって法の確定性を損なう抑圧的法とのいずれをも退け、多様な法主体への応答性に基礎づけをもつ法の姿を示す（ノネ／セルズニック『法と社会の変動理論』1981)。その意味では、研究代表者が組織し、科学研究費補助金により 2010 年度から 2013 年度にかけて実施した研究事業から根本的問題意識を引き継いでいる。本研究は、オルタナティブ・ジャスティス研究の視点からとくに紛争処理手続きの公正性に着目した先の研究とは異なり、婚姻慣習法における新しい規範創造のプロセスについての研究に、上記の問題意識を敷衍するかたちで、あらたに計画するものである。

２．研究の目的

現代アフリカ諸国における慣習法の運用が、多様な法主体の関与を経て、法の柔軟性を維持しつつ、法の確定性に寄与する条件とはいかなるものか。本研究は、婚姻と家族制度に関する固有法・慣習法の運用実態を主たる研究対象に、次の２つのリサーチ・フォーカス＝RF によるフィールドワークを、それぞれケニアの農村と都市（裁判所）とで実施する。[RF1] ケニア農耕民の四社会において、固有法の柔軟性と確定性のローカルな諸条件を観察するための民族誌的調査研究をおこなう。［RF2］地方裁判所における離婚訴訟記録等の分析により、ケニアにおける固有法の慣習法化について、現状と過去 60 年の変化を明らかにする。以上で得られた知見から、アフリカ慣習法が柔軟性と確定性の両方を維持しつつ、応答的法として発展するための諸条件を考察する。

３．研究の方法

本研究は、研究代表者および連携研究者のこれまでの研究業績と、これまでに構築してきたケニア国立博物館との共同研究体制とを十全に活用し、新たな連携研究者を加えるかたちで上記研究目的によって新たに組織した。ケニア国立博物館を連絡拠点に定め、ケニア西部グシイ地方とクリア地方ならびにケニア中央高地イゲンベ地方とティガニア地方の農村ならびに都市で、フィールドワークを実施した。首都ナイロビでは、国立公文書館、国立博物館において打ち合わせと文献収集をおこなった。研究成果は、英文論文集（ケニア国立博物館およびナイロビ大学出版会の出版物）により開示した。

４．研究成果

【2016 年度】石田慎一郎（研究代表者）ならびに松園万亀雄（連携研究者）は、2016 年 8 月から 9 月にかけての 33 日間、ケニアに出張した。イゲンベ地方ならびにキシイ地方の農村におけるフィールドワークの開始に先立ち、ケニア政府の調査許可証（石田・松園・馬場）の取得手続きをおこなった。また、ケニア国立博物館主任研究員ジュグナ・ギチェレ（研究協力者）ほかと研究打ち合わせをおこない、以後４年間の研究実施スケジュール、連携方法等について意見交換をおこなった。日本学術振興会ナイロビ研究連絡センターにてセンター長に面会し、情報交換をおこなった。上記の後、石田は、イゲンベ地方において、婚姻慣習法の具体的内容に関わる聞き取り調査を実施したほか、ケニア政府が新たに導入したコミュニティ・ポリシング政策に対する

地域社会への対応と認められる事例を観察した。松園は、婚姻慣習法の具体的内容に関わる聞き取り調査を実施したほか、ケニア政府が新たに導入した高齢者福祉政策の地域社会への導入状況について聞き取り調査を実施した。馬場淳（連携研究者）は、2017 年 2 月に 13 日間、ケニアに出張し、ティガニア地方において婚姻をめぐる伝統的実践や紛争処理の実態に関する聞き取り調査を実施した。また、ティガニア地方裁判所では、公式的な法システムにおいてどのような婚姻紛争が生じているのかを考察するための資料を得た。小田亮（連携研究者）は、ケニアへの渡航直前に生じたやむを得ない事情により、平成 28 年度のクリア地方におけるフィールドワークを取りやめた。そのため、小田の出張旅費相当額について平成 29 年度に繰越使用した。小田は、国内において文献研究を実施し、当初計画に遅延が生じないようケニア人研究協力者にサポートを依頼した。2016 年 5 月に、ケニア国立博物館を拠点とする共同研究の成果論文集をナイロビ大学出版会から出版した。

【2017 年度】石田慎一郎（研究代表者）ならびに松園万亀雄（連携研究者）は、2017 年 7 月から 9 月にかけての 38 日間、ケニアに出張し、イゲンベ地方ならびにキシイ地方の農村でフィールドワークをおこなった。フィールドワークの開始に先立ち、ケニア国立博物館主任研究員ジュグナ・ギチェレ（研究協力者）ほかと打ち合わせをおこなった。日本学術振興会ナイロビ研究連絡センターにてセンター長に面会し、情報交換をおこなった。上記の後、石田・松園は、キシイ地方にて、ソープストーン産業における労働組織について基礎的な情報収集を実施し、イゲンベ地方では、婚姻慣習法の具体的内容に関わる聞き取り調査を実施した。ほか、ケニア政府が導入したコミュニティ・ポリシング政策に対する地域社会への対応と認められる事例について追跡調査を実施した（石田）。ケニア政府が導入した高齢者福祉政策の地域社会への導入状況について昨年度に続いて聞き取り調査を実施した（松園）。ケニア人研究協力者とともにメル町近郊のルイガ村の郷土資料館を訪問し、成果取りまとめに向けた打ち合わせをおこなった（石田・松園）。馬場淳（連携研究者）は、2018 年 2 月に 12 日間、ケニアに出張し、ティガニア地方の農村におけるフィールドワークをおこなった。とくに、家族と婚姻の出来事を「証明」する装置としての写真に焦点を当て、ミキンドゥリ町のスタジオと農村において、家族と婚姻をめぐる住民の「記憶」に関して聞き取り調査を実施した。板久梓織（研究協力者、首都大学東京人文科学研究科博士後期課程大学院生）は、2017 年 7 月から 10 月にかけての 94 日間、ケニアに出張し、ケニア政府の調査許可証を取得したうえで、キシイ地方の農村におけるフィールドワークをおこなった。ソープストーン産業における労働組織について聞き取り調査を実施するとともに、グシイ社会の家族生活に関する基礎資料を収集した。

【2018 年度】　研究代表者・石田慎一郎は、ナイロビ市のケニア国立博物館において主任研究員ジュグナ・ギチェレほかと研究打ち合わせをおこない、研究実施スケジュール、連携方法等について意見交換した。また、イゲンベ地方農村において、婚姻慣習法の具体的内容に関わる聞き取り調査を実施したほか、今回はとくに地域住民がそれぞれの個人名を獲得した社会的文脈についての調査を実施した。これを含むデータを収集することで、イゲンベ農村の婚姻、家族生活、ライフサイクルを総合的に理解するための手がかりを得た。メル町では、8 月 25 日にケニア人研究協力者と共同で研究会を開催し、成果取りまとめに向けた打ち合わせをおこなった。連携研究者・松園万亀雄は、イゲンベ地方農村において、婚姻慣習法の具体的内容に関わる聞き取り調査を実施したほか、ケニア政府が新たに導入した高齢者福祉政策の地域社会への導入状況に加えて、それぞれの事情により子供（孫）を扶養する農村高齢者（とくに女性）の日常生活について昨年度に続いて聞き取り調査を実施した。連携研究者・馬場淳は、ティガニア地方農村において、家族と婚姻の出来事を「証明」する装置としての家族写真に焦点を当てた聞き取り調査について、2016 年度以来、総計 26 世帯でのデータ収集を完了した。研究協力者・板久梓織（首都大学東京人文科学研究科博士後期課程大学院生）は、昨年度に続き、キシイ地方において、ソープストーン産業における労働組織について聞き取り調査を実施するとともに、グシイ社会の家族生活に関する基礎資料を収集した。

【2019 年度】研究代表者・石田慎一郎は、2019 年 8 月から 9 月にかけて、（1）ナイロビ市にて、ケニア側研究協力者ジュグナ・ギチェレに面会し、ケニア国立博物館を拠点とする共同研究事業の成果を取りまとめにむけた打ち合わせをおこなった。（2）イゲンベ地方にて、連携研究者・松園万亀雄と共同で、前年度につづいてフィールドワークを継続し、英文論文のとりまとめに必要なデータ収集をおこなった。（3）ティガニア地方にて、パリ第 10 大学名誉教授のアンマリー・ピートリック博士と面会し、研究成果公開にあたっての助言を得た。（4）連携研究者・馬場淳とマウア町にて面会し、情報共有をおこなった。（5）メル町にてケニア側研究協力者と共同で研究会を開催し、成果論文の内容について議論をおこなった。松園万亀雄（イゲンベ地方）、小田亮（クリア地方）、馬場淳（ティガニア地方）は、連携研究者としてそれぞれフィールドワークを実施した。その後、2020 年 3 月までに海外研究機関（首都大協定校 MSU Denver のアフリカ研究所での招待講演、首都大マラヤ大合同シンポジウムでの成果発表等）での研究代表者による成果発表と、研究代表者・連携研究者・研究協力者による英文成果論集（ケニア国立博物館刊行）を終了する予定だったが、2020 年 2 月の新型コロナの発生及びアメリカにおけるインフルエンザの大流行により当初計画を変更（直接経費の繰越）した。研究代表者・連携研究者・研究協力者は、2020 年 11 月に、ケニア国立博物館刊行物として英文成果論文集 *Family Dynamics and Memories in Kenyan Villages* を出版して本研究の成果を開示した（ただし、新型コロナの影響により当初予定していた成果論文全てを所収できなかった）。なお、報告書は東京都立大学

リポジトリでも全文公開した。
【主要研究成果】前述の通り、本研究の成果として、研究代表者単著『人を知る法、待つことを知る正義』（勁草書房、2019 年）、参加研究者共著 *Family Dynamics and Memories in Kenyan Villages*（ケニア国立博物館、2020 年）のほか、以下の通り多数の研究業績を得た。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計17件（うち査読付論文　7件／うち国際共著　2件／うちオープンアクセス　9件）

１．著者名 石田慎一郎	４．巻 45
２．論文標題 書評 Olaf Zenker and Markus Virgil Hoehne eds., The state and the paradox of customary law in Africa	５．発行年 2019年
３．雑誌名 社会人類学年報	６．最初と最後の頁 185-194
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 石田慎一郎	４．巻 46
２．論文標題 書評 Kaius Tuori, Lawyers and savages: Ancient history and legal realism in the making of legal anthropology	５．発行年 2020年
３．雑誌名 社会人類学年報	６．最初と最後の頁 153-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 板久梓織	４．巻 98
２．論文標題 ケニア・グシイ地方のソープストーン彫刻産業 ： 居住地を拠点にした総合的地場産業の発達	５．発行年 2020年
３．雑誌名 アフリカ研究	６．最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 山名美加、角田猛之、市原靖久、北川勝彦、新熊隆嘉、石田慎一郎、長谷川晃、シュレスタ，マノジュ エル	４．巻 68(6)
２．論文標題 アフリカの経済発展と法 ： サブサハラにおける法文化、環境保全、技術移転をめぐる総合的研究	５．発行年 2019年
３．雑誌名 関西大学法学論集	６．最初と最後の頁 1463-1488
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 石田慎一郎	4．巻 44
2．論文標題 ［書評］Mark Goodale, Anthropology and Law	5．発行年 2018年
3．雑誌名 社会人類学年報	6．最初と最後の頁 147-156
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 石田慎一郎	4．巻 3363
2．論文標題 ［書評］アラン・シュピオ『法的人間　ホモ・ジュリディクス：法の人類学的機能』〔書評文タイトル「超人間的法を求める社会そして人間への警告：人間化する技術としての法をとりもどす」〕	5．発行年 2018年
3．雑誌名 図書新聞	6．最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Shin-ichiro Ishida	4．巻 38 (4)
2．論文標題 Homicide Compensation in an Igembe Community in Kenya, 2001-2015: Fifteen Years of Clan Making in a Local Context	5．発行年 2017年
3．雑誌名 African Study Monographs	6．最初と最後の頁 173-220
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14989/228148	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Shin-ichiro Ishida	4．巻 514-2
2．論文標題 For a Man Who Never Dies and Who Eats His Own: Revival of Clan in Local Communities of the Igembe in Kenya	5．発行年 2018年
3．雑誌名 人文学報．社会人類学分野	6．最初と最後の頁 65-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 ギチェレ ジュグナ，石田 慎一郎 [訳] ，板久 梓織 [訳]	4．巻 41
2．論文標題 ローカルな知識による環境保全と社会経済開発の試み ケニア・メル地方ギートゥネ・フォレストの事例から	5．発行年 2017年
3．雑誌名 ノモス	6．最初と最後の頁 37-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Njuguna Gichere	4．巻 41
2．論文標題 Local Knowledge in Conservation of Community Resources for Socio-Economic Development of Kenya: The Case of Giitune Sacred Forest, Meru	5．発行年 2017年
3．雑誌名 ノモス	6．最初と最後の頁 57-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 石田慎一郎	4．巻 87
2．論文標題 書評　小馬徹著『「統治者なき社会」と統治：キプシギス民族の近代と前近代』	5．発行年 2017年
3．雑誌名 神奈川大学評論	6．最初と最後の頁 133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 石田慎一郎	4．巻 43
2．論文標題 書評　Fernanda Pirie, The Anthropology of Law	5．発行年 2017年
3．雑誌名 社会人類学年報	6．最初と最後の頁 165-172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 石田慎一郎	4．巻 84
2．論文標題 書評　徳永賢治『南島法と多元的法体制』	5．発行年 2018年
3．雑誌名 法社会学	6．最初と最後の頁 287-292
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 松園万亀雄	4．巻 2017年5月15日号
2．論文標題 アフリカ・スローライフ点景1　おばあさんはしんどい	5．発行年 2017年
3．雑誌名 かけはし（明石市保護司会報）	6．最初と最後の頁 6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松園万亀雄	4．巻 2017年11月30日号
2．論文標題 アフリカ・スローライフ点景2　ソマキルばあさんの新居	5．発行年 2017年
3．雑誌名 かけはし（明石市保護司会報）	6．最初と最後の頁 6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Shin-ichiro Ishida	4．巻 513-2
2．論文標題 Formal and Substantive Reasoning about Marriage in Kenyan Legal Pluralism : A Three-Dichotomy Analysis	5．発行年 2017年
3．雑誌名 人文学報．社会人類学分野	6．最初と最後の頁 63-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 タマナハ ブライアン・Z ，石田 慎一郎 [訳] ，村上 武則 [訳]	4．巻 39
2．論文標題 開発における法の支配とリーガルプルーラリズム	5．発行年 2016年
3．雑誌名 ノモス	6．最初と最後の頁 43-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 石田慎一郎
2．発表標題 オルタナティブ・ジャスティスはリーガルプルーラリズムの応用問題か
3．学会等名 日本文化人類学会第51回研究大会
4．発表年 2017年

〔図書〕　計7件

1．著者名 石田慎一郎	4．発行年 2019年
2．出版社 勁草書房	5．総ページ数 296
3．書名 人を知る法、待つことを知る正義	

1．著者名 松本尚之・佐川徹・石田慎一郎・大石高典・橋本栄莉編（石田慎一郎ほか共著）	4．発行年 2019年
2．出版社 昭和堂	5．総ページ数 288
3．書名 アフリカで学ぶ文化人類学	

1．著者名 editors, Njuguna Gichere, S.A. Mugambi Mwithimbu, and Shin-ichiro Ishida ; authors, Njuguna Gichere, Makio Matuzono, Shin-ichiro Ishida, Jun Baba, Shiori Itaku, S.A. Mugambi Mwithimbu, and Eliud Mutwiri	4．発行年 2020年
2．出版社 National Museums of Kenya	5．総ページ数 162
3．書名 Family dynamics and memories in Kenyan villages	

1．著者名 馬場淳・平田晶子・森昭子・ 小西公大編（馬場淳・石田慎一郎ほか共著）	4．発行年 2021年
2．出版社 東京外国語大学出版会	5．総ページ数 355
3．書名 萌える人類学者	

1．著者名 桑山敬己、綾部真雄（石田慎一郎ほか共著）	4．発行年 2018年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 400
3．書名 詳論 文化人類学	

1．著者名 細谷広美、佐藤義明（石田慎一郎ほか共著）	4．発行年 2019年
2．出版社 昭和堂	5．総ページ数 342
3．書名 グローバル化する〈正義〉の人類学	

１．著者名 Njuguna Gichere, Mugambi Mwithimbu, S.A., Shin-ichiro Ishida eds.	４．発行年 2016年
２．出版社 University of Nairobi Press	５．総ページ数 270
３．書名 The Indigenous Knowledge of the Amiirru of Kenya	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
連携研究者	松園　万亀雄 (Matsuzono Makio) (00061408)	国立民族学博物館・元館長・名誉教授 (64401)	
連携研究者	小田　亮 (Oda Makoto) (50214143)	首都大学東京・人文科学研究科・教授 (22604)	
連携研究者	馬場　淳 (Baba Jun) (60615128)	和光大学・現代人間学部・准教授 (32688)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ケニア	ケニア国立博物館			